

平成31年度 学校経営方針

八戸市立明治中学校
校長 佐々木 敏文

1 校訓

「英知」 「誠実」 「自律」 『夢をもち 学び 鍛えあう』

2 教育目標

- (1) 自ら学ぶ生徒 [知]
- (2) 思いやりのある生徒 [徳]
- (3) 心身を鍛える生徒 [体]

3 努力目標

- (1) めあてをもって学習に励もう 【確かな学力の保証】
- (2) 相手の立場を考えて行動しよう 【思いやりの心の育成】
- (3) 健康づくりに励もう 【たくましく生きるための体づくり】

5 経営方針

中学校での3年間は、生徒が社会的自立を実現するための人生の土台づくりの時期である。知・徳・体の調和のとれた人間育成に根気強く取り組み、耐性のある生徒を育てていきたい。そして、出会いを大切にし、一人一人のよさを生かす教育活動に誠心誠意努めていきたい。どんなことがあっても、『生徒の可能性を信じ、プラス思考』で仕事をするチーム明治を組織し、教育活動を展開したい。

《教師の基本姿勢》

- ①常に生徒の心と身体いのちを最優先にして考える。
 - ②教育という仕事の重みを考え、生徒のために、常に信念と行動力をもって仕事をするとともに、謙虚な気持ちで耳を傾け、学ぶ姿勢を忘れない。
 - ③生徒指導の根幹は教師と生徒の信頼関係の構築にある。常に誠実な気持ちで生徒に接し、生徒の成長を喜び合える教師集団でありたい。
 - ④すべての教育活動にカウンセリング・マインド(受容と共感)をもった姿勢で臨む。
 - ⑤全教職員がチーム明治として、学校経営に対する参画意識をもち、各自の持ち味を最大限に生かし、協力し、責任をもって仕事に取り組む。
 - ⑥学校や地域の特色を十分に生かした教育活動を心がける。
- 《 笑顔で 元気に さわやかに 明治中 》

学校目標

『夢をもち 学び 鍛えあい 力のある生徒の育成』

〔重点施策〕

- (1) 一人一人の子どもに「確かな学力」を身に付けさせるために、「ユニバーサルデザイン」による授業改善。
 - ①だれもがわかる、だれもが参加できる授業づくり。
 - ②適切な配慮・支援の工夫をして、個性・個人差に応じた個別指導を行う。
 - ③学習習慣を形成する指導を行う。家庭学習のやくそくを徹底させる。
生活ノート・自学ノート等を活用し、宿題・家庭学習を計画的に取り組ませる。
 - ④学習意欲を向上させる取り組みを根気強く行う。基礎力コンテスト等を活用し、個に応じたの事前・事後指導を工夫し、「やればできる」気概を育てる。
- (2) 壁を乗り越える経験を実感させる指導と適切な個別指導。
 - ①挨拶・返事、プラス1(心を添える)を意識した言動の励行。率先垂範の姿勢。
 - ②生徒一人一人が活躍できる場・認められる場の学級経営。
 - ③常に【明治中生としての人間力 振り返り10項目】を意識させた指導。
- (3) 将来の夢や希望をもたせるキャリア教育の視点に立った教育活動を行う。
※「なぜ学ぶのか」「何を学ぶべきか」をキャリア教育の視点を通して考えさせる。
行事、体験活動等。
- (4) 保護者や地域住民との協働に努める。
※地域社会の一員として積極的に関わろうとする意識を育てる。地域への貢献。

5 31年度の4つの実践

(1) 一人一人の子どもに「確かな学力」を身に付ける学校づくりを目指す

- ①将来の夢や希望をもたせるキャリア教育の視点に立った教育の推進
ア)「なぜ学ぶのか」「何を学ぶべきか」をキャリア教育の視点を通して考えさせる。
イ)今取り組んでいることと将来の社会との関係を見い出し結びつけることにより、自分が学んでいる理由や重要性を知ることを目指す。
ウ)単なる進路先を探す教育ではなく、自分を知ることからはじめ、何に向いているのか、何を高める必要があるのかを面談等を通して一人一人に対してサポートする。
- ②授業改善による学力の向上
ア)授業がおもしろい・楽しい・不思議だという思いをもたせる授業の実践を通して、「学びたい」「もっと勉強したい」という気持ちを育てる。生徒の視点を生かす授業づくり。
イ)積極的に授業公開し、意欲を高める指導の工夫に視点を当て、授業について学び合う土壌を育む。同僚性の構築。
ウ)「特別支援教育の視点」を取り入れた授業づくりのために、授業改善チェックシートや授業アンケート等を有効活用し、授業改善に努める。
- ③個に応じた指導
ア)確かな学力を確かなものにするために、TT指導を取り入れるとともに、適切な配慮・支援の工夫をし、個性・個人差に応じた個別指導に努める。
イ)学習意欲の2極化の解消のため、個に応じた事前・事後指導を工夫する。
- ④学習習慣の確立を図る。
JS 家庭学習のやくそく：重点目標 最初に「宿題」！
※その日のうちに復習・予習（発展的課題）を意識させ、取り組ませる。

(2) 壁を乗り越える経験を実感させる指導

- ①学年・学級経営並びに学校行事において、「自尊感情」や「自己有用感」の育成に努める。
- ②行事などの取組の後に、お互いをたたえる機会の設定に努める。
- ③生徒会活動の活性化を図る。…全校生徒一人一人の参画意識を高める工夫

(3) 子ども一人一人が活躍し、認められ、笑顔で活動する場の充実を図る。

- ①ソーシャルスキルの実践
Q-U 検査を実施し、その結果を参照し、ソーシャルスキルトレーニングによって、人間社会のルール、上手な聴き方、上手な話し方、仲間づくりのスキルを通してよりよい人間関係を築く方法を身に付けさせる。
- ②切磋琢磨できる仲間づくりと安心できる学級づくり
㊦ 傷つけられない安心感がある学級・認められたい欲求が満たされる学級・一体感がもてる学級づくりを推進する。教育相談体制の充実（SC との連携強化）。
㊧ 毎月、生活アンケートの実施・活用。情報の共有を図り、積極的生徒指導へ。

(4) 保護者や地域住民との協働に努める

- ①地域の行事や活動に積極的に参加するとともに、地域へ貢献する。
→地域をよく知るとともに、地域の行事やイベント及びボランティア活動に積極的に参加することを推進し、地域の活性化の役割を果たしつつ社会への貢献の仕方を学習する機会とする。
- ②いつでも誰でも学校に足を運べるような雰囲気づくりと情報発信に努める。
- ③PTA活動の活性化を図る。※PTA 委員会活動への参加促進を図る。